届け 世界の果てまでも

令和４年９月９日　Ｎｏ．３２　文責　校長　飯久保一男

出前の器

数年前まで，夜遅く「マツコ＆有吉の怒り新党」という番組がテレビで放送されていました。「怒り新党」の幹事長にマツコさんと政調会長に有吉さんのコンビ，アシスタントの総裁秘書にその後に有吉さんと結婚する夏目さんというメンバーで，怒り新党に寄せられた「国民の声」に関わって意見を交わす番組でした。私はこの番組の「新・三大〇〇」というコーナーが好きで，その部分だけ録画して見返すことがありました。　…マツコさんと有吉さんのコンビは，今，別の番組をやっていますね。

その番組の中で，次の国民の声がとり上げられたことがありました。

> 私はアルバイトで宅配寿司の配達をしているのですが，桶を洗わずに返す人がとても多いのです。
> 信じられません。
> 独り暮らしの学生などならまだ理解もできますが，子どものいる家庭でも平気でそのまま返してきます。
> しかも食べ残しの食材やゴミまでそのままです。
> お二人はどうされていますか？

…コロナ禍では，宅配の食料品の需要は増えたと聞きますし，その分，使い捨ての容器の宅配も多くなったと聞きます。SDGs の取り組みとして，もったいない気がしますが，器を回収することを考えると働き方改革の一つかもしれません。

この国民の声に対して，マツコさんも有吉さんも「もちろんちゃんと洗う」と答えていました。マツコさんは「洗わないどころか，汁がまだ残っているような器をそのままマンションの返却場所に置いている人もいる」と怒っていました。有吉さんは「お客様は神様だというカン違いがある」と言っていました。

この番組のスタッフが１０代～６０代の５００人を対象に「器を洗うかどうか」のアンケートをとりました。その結果「器を洗わない」と答えた人は２４％でした。４人に１人くらいは出前の器を洗わないという結果でした。

器を洗わないという国民の声は次の理由でした。

- たぶん店で洗い直すから
- 下手に洗って器を傷つけたくない
- 面倒だし，自分がやる仕事ではない
- 洗う料金まで払ってない

出前を行っている飲食店３０店の国民の声は次の結果でした。

・洗わなくていい	３店
・水で流すくらいでいい	１４店
・しっかり洗って欲しい	１３店

日本の飲食店であれば，回収した出前の器を洗わずに次に使う店は絶対ないはずです。だったら洗わなくていいという考えは，ある意味合理的です。しかし，食べる前に「いただきます」食べたあとに「ごちそうさま」と言う習慣のある日本人は，食べ物への感謝，つくってくれた人への感謝の心をもっています。また，食後の片付けをしたことのある人なら，食べたあとの食器をそのままにしてしまい，こびりついた食器の汚れを落とすのに苦労した経験があるはずです。日本人なら「洗わなくていいの？」と感じる人は多いと思います。

飲食店で食事したあと，食器などをどのようにしていったらいいのかという内容を扱ったテレビ番組を見たことがあります。その番組の中の店員は「食器を重ねると余計な部分が汚れるので重ねないでほしい」と言っていました。それでも，食べ残したものは端にまとめるとか，使った紙ナプキンは口を拭いた部分を内側にしてたたむなどすることがマナーではないかと思います。

私は担任をしていたとき，給食を食べたあとに，できるだけ食器をきれいにして返しました。パンが出た日は，最後にはパンで食器を拭くようにして食べました。給食センターではもちろん毎日食器を洗いますので，汚れたまま返しても構わないと思いますが，つくってくれた方への感謝を表す一つの形だと思っていました。今でも続けている習慣です。強制してはいませんが，徐々に子どもたちがマネをしていくクラスがありました。さらに，全員で食器をきれいに返そうという取り組みに発展したクラスもありました。そのクラスは，食器に付いた食べ残しや汚れをスプーンでできるだけきれいにするなどに取り組みました。

物事には必ず「次」があります。「次の人を思いやる気持ち」があるかどうかによって，そのときの行動が変わります。本校はトイレではサンダルに履き替えます。トイレを出るとき，そのサンダルの向きをそろえるのは，次に使う人への思いやりです。次のこと・次の人のことを考えて行動することが，次の人への感謝を伝えたり，次の人を敬ったり，思いやったりする心となり，それが礼儀やマナーにつながります。以前に自分に続いて他の人がドアを通るときに，ドアを開けて次の人を待つという内容のＣＭがありました。全く知らない人であっても，ちょっとした心づかいができることが，礼儀やマナーになるのだと思います。

長野県に「フジゲン」というギター会社があります。この会社を創業し，たった一代でエレキギターの生産で世界一のトップメーカーに育て上げたのが横内祐一郎会長です。

ある日，横内会長が近所の行きつけの食堂に行くと，店主から突然「今日は金は要らない。おごりだ。」と言われたそうです。理由を聞くと，店主はこんな話をしてくれました。

「あんたの会社に出前を下げに行くと，いつもピカピカに洗われて米粒ひとつ残っていない丼が棚の上に並んでいる。しかも，真っ白でぱりっとした清潔な布がかけてある。俺はいつも出前の片付けで，汚い丼を見るたびに，自分はなんて情けない仕事をしているのかと悲しくなる。けれどあんたの会社に行くと，俺はいつも背筋が伸びてすがすがしい気分になるんだ。だから，今日はお礼の気持ちとして，昼飯をおごらせてほしい。」

フジゲンの社員がこれほど素晴らしい行動ができるようになったのは，会社がまだ小さな工場だったころから，横内会長が

「世界一の会社ならばどうしたらいいと思いますか。それをいつも考えて行動してください。」

と社員に伝え続けてきたことがその理由でした。横内会長の言葉の意味を考え，行動した社員によって，出前の丼を返すときには，「ピカピカに洗って」「真っ白な布をかける」ことになっていったのです。